



# のびるほどっ子!

ほっとな未来へ 3C!

令和6年2月29日  
横浜市立保土ヶ谷小学校  
学校長 宮生 和郎

## 時が満ち、新たなステージへ

校長 宮生和郎

体育館に前奏のメロディーが流れた瞬間、集まったすべての子どもたちの心は次に響いてくるだろう6年生の声に集中していました。優しく柔らかかな6年生の歌声が聴いているすべての人を包み込み「大切なことに気づかされた」「今旅立ちの時」という歌詞が、メロディーとともに心に刻まれていきました。昨年の今頃はどのように全校が一堂に会して合唱を聴く機会はとてできる状態ではなかったのですが、今年度は10月から3年生の区の音楽会に向けたプレ発表会を皮切りに、少しずつ音楽を聴き合う機会をつくって行くことができました。会を重ねるごとに奏でる側と聴く側のレベルが上がってきて、今回の雰囲気がつくられたと思います。



早々に満開になり先端まで花が開いた正門のシダレウメ

6年生は、ややはにかんで遠慮がちに歌っているように見られる場面もありましたが、聴く側の姿勢に伝えるようにボルテージが上がっていき、最後は全校が一つとなって終わることができたように思います。卒業の日が近づくとつれて一日の密度が濃くなり、思い出も色鮮やかになっていくと思いますので、時が満ちる最後の一瞬まで一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

## 3Cの1年を経て新たなチャレンジへ ～第3回学校運営協議会～

2月26日に第3回学校運営協議会が開催され、今年度の教育活動を振り返り、保土ヶ谷小学校の現状と課題、今後の方向性等について共有する機会となりました。今年度は5月初旬にコロナ感染症が5類になった後、対面や密集を避けるといった制限がほぼなくなり、スポーツ祭を始め、宿泊学習等、各種行事で3C（創造、挑戦、関わり合い）が可能になったことで子どもたちのエネルギーが全体的に高まってきたように感じます。そしてペア学年での新たな活動を取り入れた全校遠足、国際平和について改めて考える機会となったウクライナ代表団との交流、日本と外国文化の共通点や違いに触れることで多文化共生への理解を深めることになったブルガリアの方々との交流など、多くの関わり合う教育活動が展開されたことで、互いを認め合う感性が磨かれることになったのではないかと考えています。また学力・学習状況調査の結果をもとに分析する方法が一人ひとりの伸びに着目するようになったことで、より自分自身の状況を知り、個別最適な学習方法について考え支援していくことが可能になったことも紹介させていただきました。学校評価については、各項目とも概ね良好な評価をいただいておりますが、保護者の皆様がより答えやすくなるアンケート項目にしたかどうかという貴重な意見をいただきましたので、ぜひ今後に生かしていきたいと思っております。すでにお知らせしているところですが、家庭と学校の連絡システムの“すぐーる”が3月から本格稼働します。機能を十分に生かして、タイムリーに利便性が高くなるよう運用していきたいと思っておりますのでご協力をよろしくお願いいたします。



ブルガリアのお話をする  
アントニオさん

保護者の皆様がより答えやすくなるアンケート項目にしたかどうかという貴重な意見をいただきましたので、ぜひ今後に生かしていきたいと思っております。すでにお知らせしているところですが、家庭と学校の連絡システムの“すぐーる”が3月から本格稼働します。機能を十分に生かして、タイムリーに利便性が高くなるよう運用していきたいと思っておりますのでご協力をよろしくお願いいたします。